



様々な芸術・文化に
触れる体験

中和小 The Great Wave プロジェクト

小学校

墨田区立中和小学校



笑顔と学びの体験活動
プロジェクト

概要

国内外で活躍するアーティストを招聘し、児童との交流をしながら開校150周年の記念作品を制作するとともに、日常では難しい珍しい楽器の演奏を体験することで、国際理解を深めるとともに、様々な芸術や文化に触れることで、主体的な学びの力を醸成する。

育成を目指す
資質・能力

- ・様々な国の伝統や文化を知り、自国理解につなげる
- ・身近にいる歴史上の人物を学び、理解や関心を深める
- ・50年後や100年後の未来まで続く愛校心を醸成する
- ・皆で一つのものを創り上げる素晴らしさと達成感を味わう

年間指導計画

	4月	5月	6月	7~8月	9月	10月	11月	12月	1~2月	3月	
各教科等		授業：図画工作 葛飾北斎について学ぶ	体験① 美術館見学やアート体験を通して葛飾北斎のことを知る	授業：図画工作 壁画活動の意義について学ぶ	体験② 壁画制作を通して芸術に触れる	学校行事 楽器演奏とともに周年を祝う気持ちを高める	体験③ 周年行事を学校・保護者・地域でお祝いする	→			

葛飾北斎を知ろう

- ・開校150周年の記念作品制作に向けて、墨田区で生まれた葛飾北斎について「すみだ北斎美術館」の見学をとおして知るとともに、北斎が描く絵画の価値の偉大さを学ぶ。
(3~6年生)
- ・「北斎漫画」を参考にして、北斎の作品を真似て表現することで、北斎への親近感とともに、絵を描くことの楽しさを味わう。
(1~2年生)

レガシーとしての壁画を描こう

- ・開校150周年を記念して、墨田で生誕した葛飾北斎が描いた「神奈川沖浪裏」をベースにした壁画を制作することで、子供たちに地元への愛着心を醸成する。
- ・児童一人一人が壁画制作に関わるとともに、未来へつなげるものと残したいものとの表現し、学校のシンボルとなる作品にする。
- ・世界的アーティストであるミヤザキケンスケさんとの交流を通して、世界の多様な文化を肌で感じる。

開校150周年を祝おう

- ・児童や地域の方々とともに、周年記念の壁画の完成と開校を祝うための会を開催し、皆で一つのものを創り上げる素晴らしさと達成感を味わう。
- ・南米トリニダードトバゴのドラム缶楽器である「スティールパン」という異文化に触れる体験を通して、他国の文化を学ぶ。
- ・オリジナル曲と一緒に演奏しながら、皆の気持ちを一つにすることの大切さや愛校心を醸成する。

体験①概要

体験②概要

体験③概要



【学校・教員】

- ・開校150周年に相応しく、学校のシンボルとして記念に残るものを作成する。
- ・墨田区に縁がある葛飾北斎の絵画をイメージするものを制作し、子供たちが愛着をもてる取組にする。
- ・すみだ北斎美術館との打合せを行い、学校の取組の主旨を理解していただき、協力を依頼した。



【児童】

- ・墨田区で生誕した葛飾北斎という人物や、彼が残した絵画について、図書室の本やインターネットを活用して調べた。
(学年の実態に合わせる。)

- ・低学年は、作成した絵を見合いながら絵の面白さを味わう中で、葛飾北斎の作品に触れることができた。
- ・中学年は、葛飾北斎について知ったことや興味をもったことを新聞やリーフレットにまとめて発表した。
- ・高学年は、葛飾北斎についての知識をさらに深めるべく、人物、絵画、時代背景、その後に与えた影響等について調べ学習を進めた。



- ・葛飾北斎のような歴史上で有名な人が、この墨田区から生まれて活躍したんだね。
- ・これからみんなで作る作品（絵）がどんなふうになるのかとっても楽しみになったね。

すみだ北斎美術館の見学



- ・3～6年生は、実際に「すみだ北斎美術館」を見学した。
- ・学年ごとに異なった日程で見学したことで、葛飾北斎の作品をじっくり鑑賞し、北斎について学ぶことができた。
- ・初めて訪れる児童もいたので、北斎や作品について深く学ぶよい機会となった。



すみだ北斎美術館による出前授業

- ・低学年は、すみだ北斎美術館から講師を招聘し、出前授業で葛飾北斎の絵を形で表現する構成について、学習に取り組んだ。
- ・1つの絵が○や△という形から構成される面白さをシールを利用して表現した。
- ・たくさんのシールがあったこともあり、興味を持続して、とても楽しく学習に取り組んでいた。
- ・普通の授業とは異なり、低学年の児童にとって、これまでにない体験活動になった。





【学校・教員】

- ・仲介してくださるNPO法人の方々と協力して、綿密な打合せをしながら、体験活動を実施した。
- ・アーティストの方の思いと学校側の主旨を十分に話し合っ、方向性を確認した。
- ・作品の制作のために、校内におけるワークショップを4回実施した。
- ・児童だけでなく、地域や保護者も参加できる機会を設定した。



【児童】

- ・体育館に学校のシンボルとなる壁画をみんなで制作する意識をもつことで創作活動に対する興味・関心を高めた。
- ・開校150周年をお祝いする気持ちをもって、取り組めるよう工夫した。
- ・世界の多様な文化について学びを深めた。



- ・講師のミヤケンさんと一緒に活動した時間は、いつもあっという間で楽しかったね。
- ・一人一人が描いた絵が全部使われているし、絵がとっても大きいから早く見たいね。

◇ワークショップ1回目

アーティストによる「葛飾北斎とのつながり」、「プロジェクト（作品製作や体験活動）の説明」、「児童から作品のアイデア募集」という講演や説明があり、児童とのコミュニケーションづくりに取り組んだ。



◇ワークショップ2回目

児童から募集した絵を元に、アーティストが下絵を作成した。それを実際に飾るテント生地の帆布に児童の作品を貼るベースとなる絵の制作とともに、下地塗からパーツの貼り付けまでを行った。パーツを切り抜く作業では地域や保護者の方にも協力していただいた。



◇ワークショップ3回目

全校児童一人一人が、割り当てられたパーツに自由に絵や色を組み合わせる自分だけの作品（パーツ）を完成させた。制作の際も、児童アーティストが対話し思いを共有しながら作業に取り組んだ。



◇ワークショップ4回目

一人一人の絵のパーツを高学年が代表してキャンバスへの貼り付け作業を行った。一つ一つの絵を丁寧に貼る作業を通して、絵の完成が待ち遠しい気持ちで取り組む様子が見られた。



体験 3回目

計画・準備・事前学習



【学校・教員】

- ・NPO法人の方と相談しながら、お披露目会にふさわしい音楽は何かを模索した。
- ・子供たちの笑顔のために楽しい会にしたいという思いから、スティールパンの演奏とした。
- ・スティールパンオーケストラの主催団体は、異文化の音楽を通して隅田川周辺で体験活動をしているということで決め手の一つとなった。



【児童】

- ・昨年度2学年だけ体験したスティールパンだが、体験していない学年も多いので、楽器のルーツや、どんな音楽なのかなどについて、音楽の授業等で事前学習をした。

事後・振り返り

- ・楽器演奏や楽しいリズムに思わず体が動き出し、演奏者の周りで踊ったり、実際に楽器に触れたりすることで、その国の文化に触れることができた。
- ・事後に手紙を書く活動を通して、自分の体験を振り返り、異文化に触れたときの思いや感情を思い返し、今後の学習にかかしていく。

成果

- ・墨田区にゆかりのあるアーティスト「葛飾北斎」について深く学ぶことで、自分の住んでいる地域の理解につながった。
- ・葛飾北斎の「神奈川冲浪裏」をオマージュした壁画作品を児童全員で協力して作成することができたことは、一つのことに取り組む一体感や達成感を十分に味わわせることにつながった。
- ・周年行事の一環として実施することになった壁画作品は、児童だけでなく、保護者や地域の方とも協力してできた、まさにチームとしてみんなで取り組んだ一大プロジェクトとなった。
- ・スティールパンの演奏を通じて、トリニダードトバゴの文化や歴史について学ぶ機会にもなり、異文化への興味や理解が深まった。



取組・実践

祝開校150周年・壁画完成お披露目会

<壁画除幕式>

一緒に制作していただいたアーティストとともに、完成した記念作品をみて、子供たちは自分たちが関わった作品を見る目が輝いていた。アーティストから、作品に込めた思い等についてお話いただいた。



私のイラストはどこかな？

<150周年をお祝いしよう>

壁画の完成披露に合わせて、南米トリニダードトバゴのドラム缶楽器である「スティールパン」の演奏を聴きながら、150周年を楽しく笑顔でお祝いした。



すごい迫力で圧倒されるなあ…

楽しくなってきちゃった。踊っちゃおう！



○壁画アーティストのミヤザキケンスケさんと一緒に笑顔あふれるお披露目会になった。